Nishibeppu National Hospital

にしべっぷ

2017-3号
平成29年10月

発行所　独立行政法人 国立病院機構　西別府病院
住　所　〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地
TEL 0977-24-1221　　FAX 0977-26-1163
ホームページアドレス　http://www.nbnh.jp/
印　刷　有限会社 中央印刷

うすき竹宵（臼杵市）

目　次

ご挨拶 …… 2
医局紹介　神経内科 …… 3
第８回 大分難病研究会の開催について …… 4
第28回子供肥満教室を開催して …… 5
病診連携セミナー …… 6
「看護の日」イベントを開催して …… 7
「健康フェア」のご案内 …… 7
夏祭り!!暑さを吹き飛ばせ！ …… 8
東１病棟の利用者様による個展開催 …… 9
地域医療連携室だより …… 10
職場紹介 …… 11

理　　念　私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基 本 方 針　1.患者中心の医療　2.患者の権利と尊厳を守る　3.政策医療の推進　4.地域医療への貢献
5.最良･安全医療の提供　6.チーム医療の推進　7.経営基盤の確立

患者さまの権利　1.良質で安全な医療を受ける権利　2.十分な説明を受け、質問する権利
3.自分で医療の内容を決定する権利　4.プライバシーを保護される権利　5.カルテ開示を受ける権利
6.セカンドオピニオンを受ける権利　7.臨床研究への参加と拒否の権利

平成29年度後期に向けて

副院長
原　政　英

平成29年度も後期を迎えようとしています。かつてない高齢化と少子化の時代を背景として、我々を取り巻く医療環境は一段と厳しいものとなっております。当院では、その理念である「患者様のために最良の医療を提供」を目指し、全職員が一丸となって日々努力を重ねております。平成30年２月には、「チーム医療を通した医療の質の向上」を大会テーマとして、日本医療マネジメント学会第18回大分県支部学術集会（大会会長：後藤一也院長）を主催いたします。今年度の病院目標でもある「チーム医療」の実践とその課題について皆様とともに考える良い機会となれば幸いです。

11月には、医療を支える媒体である電子カルテシステムを更新いたします。現在、全部署参加のグループワークにより、安全で円滑な診療が行えるようシステム構築の最終段階に入っております。その特徴として、(1) ネットワーク設備を見直し、高速・大容量通信に耐えるインフラの構築 (2) 仮想サーバの導入による消費電力削減 (3) カルテデータを前システムより移行することで継続利用可能とし、シームレスな診療が行えること (4) バックアップ装置を院内複数箇所に設置し、地震等の災害時でもデータの消失を防ぐこと (5) 病棟でのバイタル入力の自動化（体温、血圧、SpO_2）(6) 感染管理システムの導入、があげられます。

さらに、年度末には、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審いたします。３回目の受審となりますが、それに向け病院全体のシステムの再確認を行っています。これら主要な病院行事を診療システム見直しの機会とし、チーム医療を推進し、医療の質を高め、地域医療と在宅医療に貢献できるよう努めてまいります。皆様のご理解とより一層のご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

ごあいさつ

血液内科医師　安部　美由紀

この度、４月１日付で血液内科に着任致しました、安部美由紀と申します。

生まれも育ちも兵庫県ですが、大学入学時に大分にやってきて15年。すっかり関西弁も抜けて、大分弁で生活しています。医師になって９年目、初期研修を明けてからは途中産休もありましたが、大分県内各地の血液内科の診療に従事して参りました。

血液内科で扱っている疾患は、外来でよく遭遇する鉄欠乏性貧血といった一般的な疾患から、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった血液腫瘍、自己免疫性溶血性貧血や特発性血小板減少性紫斑病などの難病指定疾患と、かなり幅広いです。まだまだ修行中の身ではございますが、緒方先生、中山先生にご指導頂きながら血液疾患で悩まれている方々のお役に立てるよう努力して参ります。何卒、皆様方のご指導とご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

歯科医師　尾　崎　由　衛

平成29年７月１日より採用されました、歯科医師の尾崎由衛です。広島大学・大学院を卒業（H14）、修了（H18）後、九州歯科大学に勤務し、高齢者歯科医療、摂食嚥下障害を専門としています。７月以前の６年間は北九州市の急性期病院の歯科に勤務し、一般歯科診療の傍ら、院内の口腔ケア委員長として病院の口腔ケアシステムの構築、摂食嚥下サポートチームの立ち上げ等を行って参りました。

当院においては、今までと違った新たなニーズも多く、患者さんや他のスタッフから色々と学ばせていただきながら、歯科という専門的な目線でサポートさせていただきたいと感じております。また、院内のみでなく、地域における摂食嚥下障害サポートの一役が担えるように、多職種で連携して取り組んで参りたいと考えています。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

医局紹介　神経内科

神経内科部長　後　藤　勝　政

当院の神経内科は４人体制（男２、女２）です。みんな神経内科専門医・指導医で、また総合内科専門医でもあります。４人で筋ジストロフィーをはじめとする筋疾患と筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症などの神経難病の患者さんを中心に約100～110名の入院患者さんを診ています。気管切開、人工呼吸器、胃ろうの方が多いのが特徴です。

在宅療養中のALS等の神経難病患者さんの具合が悪くなったときなどに身近な地域で入院施設を確保することを当初の目的に、大分県重症難病患者医療ネットワークという事業が、国・県の難病対策として平成11年に発足しています。当初大分県立病院（神経内科）が拠点病院となり、西別府病院は、平成14年５月から、準拠点病院となっていましたが、平成25年４月からは、西別府病院が拠点病院となっています。県の委託事業ですが、難病コーディネーターが西別府病院内に窓口を構えて各種相談にのっています。

もう、10年以上前からですが、通院が難しくなった患者さんのお宅に訪問診療に行っています。ALSや多系統萎縮症、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィーなどで主に人工呼吸器を使用している患者さんが対象です。患者さんの自宅に２週間に１回程度訪問し、気管カニューレの交換や人工呼吸器の回路交換、膀胱瘻カテーテルの交換などを行っています。全身状態は安定していることが多いので、簡単な診察が終われば、奥様手作りのおやつでお茶をいただいて帰るところもあります。平日の日中に仕事とはいえ、病院を離れるのは気持ちよいものです。患者さんの数は多くはないですが（大体２～３名程度、亡くなられたりして入れ替わりはあります）、ほとんど途切れることなく続いています。

介護する家族は大変かと思いますが、住み慣れた我が家で家族とともに過ごせる時間は患者さんにとってとても有意義だと思います。病院よりも在宅でのケアの方が充実している部分が多々あります。病院ですと多くの患者さんの処置や検査に看護師さんは駆け回っていますが、在宅では患者さんと１対１の関係で手厚い看護、介護が行われています。患者さんの表情も病院に入院しているときよりもよいことが多いです。

長期間の在宅療養は無理でも短期間なら可能という事例もあり、先日、人工呼吸器装着のALSの患者さんの退院に自宅まで付きそってきました。自宅では、義母や息子、訪問看護師さん、ヘルパーさん、ケアマネージャーさんなどたくさんの方が待っており、「お帰りなさい」と声をかけられました。患者さんをベッドに移し、呼吸器やパルスオキシメーター、「伝の心」（意思伝達装置）、コールにもなるセンサーのセッティングなどを行い、申し送りをして帰ってきました。患者さんの表情はとてもうれしそうで、感謝の言葉をもらいました。

４年くらい前から、12月の訪問診療の際には、クリスマスに関連したコスプレで行くようになりました。サンタクロースのときや、レディースサンタ、アナと雪の女王のオラフなどです。昨年は、クリスマス前の訪問のときに変装していかなかったので、家族や訪問看護師さんから残念がられました。そこで、クリスマス後の訪問のときに当院の看護師さんが用意してくれたピカチューで訪問しました。患者さんには涙を流して喜んでもらい、「ヤッター」と思いました。

次は何にしようかと悩むこの頃です。

第８回 大分難病研究会の開催について

神経内科部長　後　藤　勝　政

この度、７月１日（土）に大分県医師会館にて、「第８回 大分難病研究会」を開催致しました。大分難病研究会は難病医療および難病支援に関わる個人･保険･医療・福祉機関の相互の情報交換、知識、技術の普及を図り交流と親睦を深めるとともに、その連携を密にし、難病患者を中心として難病医療および療養支援の発展に寄与することを目的として発足しました。

今回の開催においても、診療、看護、リハビリテーション、療養支援、福祉サービスなど難病に関する演題を広く募集し、そこに携わる多くの方にご参加頂きました。

また特別講演には、医療法人北祐会神経内科病院の野中道夫先生より、『ALS の医療において、今できることは何か』という演題で貴重なお話をして頂きました。

第８回 大分難病研究会に参加して

東２病棟　看護師　小　川　剛　弘

大分難病研究会は難病医療および、難病支援に関わる個人・保険・医療・福祉機関の相互の情報交換、知識、技術の普及を図り、難病患者を中心とした難病医療および療養支援の発展に寄与することを目的としたものです。その中で、平成 29 年７月１日（土）「熊本地震フェーズ０における神経難病病棟看護師による看護実践」というテーマで研究発表を行いました。大分県医師会館と言う厳かな会場かつ多くの聴講者という環境に、非常に緊張しながらの発表でした。発表直後の質疑応答ではフロアーより多くの手が挙がりました。今回の発表で、非常に多くの施設が災害時の対応について強い関心を持っていること、また、南海トラフ巨大地震への対策意識が高い事を感じました。今回の発表に対して多くの方が関心を持ってくれた事は、自身の看護研究に対する意義と喜びを強く感じる事につながりました。研究会では特別講演として、医療法人北祐会神経内科病院　神経内科部長　野中道夫先生による「ALS の医療において、今できることは何か」というテーマで講演が行われました。先生は「ALS は現在でも治らないが進行を遅らせることはできる。精神論ではなく疾患の知識に基づいた具体的な診療技術や治療戦略の裏付けを持ち患者に対し希望をつないであげることが大切である」と述べられ、１）栄養　２）呼吸補助　３）意思伝達手段の大切さについて詳しく説明して下さいました。先生が講演の最後におっしゃられた “No cure は Doesn`t mean no hope である ” という言葉が強く印象に残っています。研究会参加は新たな発見とともに自分がいつもしている看護も決して間違ってはいないと胸を張れる場となりました。

第28回子供肥満教室を開催して

栄養管理室
本　多　　恵

７月28日金曜日、肥満治療中のお子様、ご家族、小児肥満に関心のある方を対象に肥満教室を開催いたしました。小児科専門医より「小児肥満の概要と基礎」「小児肥満の心理」、循環器科専門医より「成人の肥満と心臓病」、心理療法士より「こだわりが強い子どもの行動を変えるには」、理学療法士より「楽しい運動の習慣づけ」、管理栄養士より「西別府たべもの体験ランドへようこそ」と題し、それぞれ講義や運動、食事の体験などが行われました。

栄養管理室では例年、低カロリー食品のお土産を準備していましたが、今年度は病院調理師による手作りお菓子の提供を試みました。「子どもでも簡単に作れるおやつは？」「満足して食べられるものに仕上げるためには、どのような工夫をすると良いかな？」など、何度も栄養士と調理師で試作･検討を重ねました。前日まで納得できる仕上がりにならず、不安を抱えたまま当日を迎えましたが、当日は電子レンジだけでできる野菜チップス４種類、人参を1/2本使用した人参ゼリー、素材の旨みを利用した茶巾絞りの３品を提供することができました。参加者の方からは「美味しかったです。家で子どもと一緒に作ってみます」「簡単ですね」という声が聞かれました。また、味が無い炭酸水にスティックシュガーを何本入れると、市販の炭酸飲料と同じ甘さになるかを実験し、試飲していただきました。こちらも「目には見えないけど、こんなに入っているのですね。」「砂糖が沢山でびっくりした」と興味を示されていました。

教室の最後には、例年通りカレーライスの提供を行いました。今年は、家族の分を作った後に一工夫加えることで、減塩かつエネルギーを減らしたカレールウの提供を行い、その作り方を動画で確認していただきました。また、毎年自分の適正量を把握していただくために性別や年齢などをもとに算出したごはんの量を各自で計量していただいています。普段食べているご飯の量と比べていただき、自分の適正量を把握する機会になればと思っております。

教室のみならず、入院中や外来での継続的サポートを行い、食を身近に感じていただけるように頑張ります。

病診連携セミナー

経営企画係長
小　池　由　哉

去る６月20日（火）、近隣の医療機関のスタッフを対象として西別府病院第４回病診連携セミナーを開催いたしました。昨年度から開始した本セミナーも、今年で２年目となりました。昨年度はリンパ浮腫治療に関する講義を計３回行いましたが、今年度はまた新たなテーマについて講義を行うこととなっております。今年度初回となる第４回セミナーでは、当院循環器科部長の天田浩司医師が、「西別府病院における心臓リハビリテーションについて」というテーマで講義を行いました。

当院は平成19年から循環器科を標榜しておりますが、心臓リハビリテーションはその頃から実施している当院の歴史ある取り組みのひとつです。平成25年には新たに心リハ室を整備し、そちらでリハビリを行っております。ひとりひとりの患者さんにとって最適なリハビリを提供するために、多職種によるカンファレンスを定期的に行い、リハビリ実施計画を策定しています。

今回のセミナーでは、保険診療上の心臓リハビリテーションの対象者や要件、心臓病の患者さんに対する運動療法の効果、当院の心臓リハビリテーションの歴史や特徴、運動療法を行う際の注意点などについてのお話がありました。参加者は当院の職員も含めて38名で、病院のリハビリ部門や訪問看護ステーションの職員の方々に多くご参加いただきました。参加者の方々はメモを取りながら熱心に講義を聞かれていました。

今年度は11月、２月にも本セミナーを行う予定としております。テーマは今回とはまた違ったものとなる予定で、時期が近づきましたら当院ホームページ（http://www.nbhp.jp/）にてお知らせさせていただく予定です。本セミナーを通じて地域医療に貢献して参りたいと考えておりますので、近隣の医療機関のスタッフの皆様におかれましては、ご参加のほど心からお待ち申し上げております。

「看護の日」イベントを開催して

外来看護師長
平　野　美　幸

「看護の日」事業の一環として「まちの保健室」を平成29年5月17日（水）にゆめタウン別府店にて開催しました。この事業は今年で9回目を迎えます。「市報を見て来ました」「血管年齢を測ってみようと思ってきました」と、イベント開催を知って来場された方がほとんどでした。今年度は「データを知ることは健康の第一歩」をテーマに掲げていましたが、測定の結果をもとに、気になる点を医師に相談したり、栄養相談の中で問題点や改善方法などを相談され、自分の身体と向き合う良い機会となっていました。

また、日頃測定する機会のない血管年齢測定に一番の興味・関心があったようで、自分の実年齢と血管年齢との相違に一喜一憂すると共に、動脈の弾力性・心拍出量などの値から血行動態を知り、自分の身体について考える「良い機会となった」という声が多く聞かれました。

来場者数は102名で昨年に比べ大幅に少なかったですが、当院の知名度としては、所在地を知らない方、どのような診療科があるのか知らない方もおり、この活動を通して知って頂く良い機会となりました。当院の様々な取り組みを紹介できたことで､PRの良いきっかけとなりました。

イベント開催にあたりご協力頂いた関係各所の皆様、ありがとうございました。

「健康フェア」のご案内

西別府病院の病院祭「健康フェア」を、今年は右記の日程で開催致します。

当日は健康相談、AED講習、骨密度測定、血管年齢測定等に加え、模擬店やステージイベントなど様々な催しを企画しておりますので、皆様お気軽にご参加下さい。

平成29年
10月28日(土)
10時から14時

夏祭り!! 暑さを吹き飛ばせ！

療育指導室
神　鳥　由　香

今年も東１・２病棟、東３・４病棟に分かれて「夏祭り」が開催されました。

たくさんの方々にご協力をいただき大盛況でした。楽しかった一部をご紹介します。

東３、４病棟のテーマは「佐賀の祭りを体験しよう～GABAI～」ということで、７月12日、13日に療育支援棟で開催できるように準備しました。東４病棟は予定通り13日に開催しました。オープニングは佐賀のお祭り「唐津くんち」で有名な曳山をイメージした龍、鯛のお神輿で登場しました。病棟スタッフや療育指導室スタッフの元気なかけ声にホールは賑やかな雰囲気になり、お神輿を眺めたり、拍手をしたり楽しまれている姿が印象的でした。また、ゲームでは佐賀の名所、名物を取り入れたゲームを行い、利用者、ご家族、スタッフ一同で楽しみました。最後に佐賀の「面浮立（めんぶりゅう）」を皆で踊りました。残念ながら、東３病棟はホールでの開催が難しく、後日病棟の療育時間に行いました。

東４病棟の夏祭り

東３病棟の夏祭り

続いて、東１、２病棟の夏祭りは８月１日、２日に各病棟で行われました。テーマは「日本の夏祭り」。竹太鼓によるオープニングの合図でエイサーの曲に合わせ、病室を練り歩き「夏祭りが始まりますよ～」と呼びかけました。皆さんの笑顔にスタッフは更に盛り上がり力が入りました！今回のゲームは「妖怪ミスコンテスト」とし、スタッフ４名が「妖怪猫娘」に扮しました。アピールタイムでは利用者の前で自信満々のポーズを決めると、「かわいい」「気持ち悪い（笑）」など声が聞かれ、利用者は好きな猫娘に投票しました。１位に選ばれた「妖怪猫娘」を選んだ利用者の名前が書かれたボールをスタッフが選んで、10名の方に豪華な？賞品が当りました。名前を読み上げると、「当たった！！」「あ～違った」などの声が病室から聞かれ、最後までハラハラドキドキの抽選会になりました。残念ながら抽選にもれた方々には投票した「妖怪猫娘」より参加賞が配られご満悦でした。更に、もう一つの楽しみは下郷農協の「アイスクリーム」です。美味しそうに味わっている利用者の表情は最高の笑顔でした。

猫娘による抽選会／東１病棟

夏祭り一色／東２病棟

また、今年度から東５病棟の一部が療養介護病棟として運営することになり、「夏祭り」を計画しました。８月18日実施当日、病室内に提灯等の装飾を行ない、法被姿のスタッフがお神輿や別府音頭でベッドサイドを訪問した賑やかな時間でした。

東５病棟の夏祭りの様子

最後に、行事に際し多くのボランティアのご協力、スタッフのご尽力を心より感謝申し上げます。

東１病棟の利用者様による
個展開催

療育指導室
神　鳥　悦　子

昨年に続き、療養生活の中でコツコツと作り上げた東１病棟利用者様の絵画等の個展を開催しています。今年度は６名の利用者様の「絵画」「五行歌」や「季節の絵」等を外来待合ロビーにて展示しています。今回３名の利用者様の五行歌３首および「季節の絵」を紹介します。

今後の予定は 12 月に「色紙絵」、２月に「五行歌」の個展を開催しますので、お楽しみに！

外来待合ロビーでの「五行歌」展

３名の利用者様の「五行歌」

こたつは魔法使いだ
あっという間に時間をとってく
しかもやめられない
他にも布団という
仲間もいる

気持ちの数だけ
色はある
それぞれの
出会いと別れが
新たな絵画となる

僕の母は優しくて
料理上手で裁縫も上手です
自慢の母です
いつも来てくれて
ありがとう

「季節の絵」

夏の花

今年の干支のにわとり

各々の個展に感想をお寄せ下さった皆様、大変有難うございました。

利用者様がその感想を読んで、次回の個展開催に向けての意欲に繋がったと思います。今後も２名の個展が控えていますので、是非感想カードへの記入を宜しくお願い致します。

地域医療連携室だより

地域医療連携係長
佐　藤　恭　子

西別府病院の医療機器(CT／MRI)利用システムのご案内

今回は、「医療機器利用システム」についてご紹介いたします。このシステムは、地域の医療機関の先生方に、当院の保有している医療機器（CT ／ MRI）をご利用していただけるよう開設いたしました。手続きが簡易に行われる事で、地域医療に役立てていただけることを目的としております。

システム予約は電話連絡で可能です。ご連絡いただいた時点で、予約枠を確認させていただき、必要書類を郵送させていただきます。紹介医様からは、撮影部位などの情報提供（FAX）をお願いいたします。患者様は、撮影予定日に西別府病院においでいただき、撮影後は、そのままお帰りいただけます。（当日、画像が必要な方には､撮影後お渡しすることもできます）画像は、後日紹介医様へ郵送させていただきます。

今後とも、地域の皆様が、効率的にシステム利用ができるよう取り組んでいきたいと考えます。

ご利用、お待ちしています。（詳細は、ホームページをご覧ください）

医療機器の利用申し込み連絡先

受付窓口は、医事課／担当者は専門職（不在時は地域医療連携係長）
※受付後の変更・キャンセルまた緊急時においてもご連絡をよろしくお願いいたします。

利用時間：平日　8：30 ～ 17：00
TEL：0977-24-1221　（内線 768，565）　FAX：0977-76-7231（連携室直通）

医療機器の利用申し込みフロー

1．患者様の流れ

2．支払について(検査料の請求と支払)

検査料金		
	・CT：9,000円+税	・画像の読影をご希望の場合、別途3,500円+税をご負担いただきます。
	・MRＩ：13,300円＋税	・CD-Rディスク代として別途500円＋税をご負担いただきます。

職場紹介

・薬剤部
・中４病棟

薬剤部

【薬剤部長　有川 仁】着任して２年目です。「人こそ人の鏡」と日々自省しつつ薬剤部職員が過度な負担無く一致協力して業務に従事出来る様、心がけております。
【副薬剤部長　桑原 貴美子】４月から西別府病院勤務になりました。東１病棟、東２病棟を担当しています。なかなか病棟に足を運べないのが残念です。せっかくの大分県勤務。おんせん県を楽しみながら日々の仕事に励みたいと思っています。宜しくお願いします。
【調剤主任　古川 和弘】今年の春より当院で勤務させて頂くこととなりました薬剤師の古川と申します。担当は中４病棟です。他職種の方々と連携して、患者さまのためにより良い医療を提供していきたいと考えています。宜しくお願い致します。
【製剤主任　小坂 隆介】中４病棟を担当しています、小坂と申します。今年で３年目です。趣味は特にありませんが、日々、娘と息子の相手で時間がなくなる毎日を送っています。大分市内からの通勤で、朝から疲れておりますが、よろしくお願いします。
【薬剤師　片山 陽介】片山と申します。部内における調剤業務のほか、病棟における服薬指導では中２病棟を担当させていただいております。まだまだ分からないことばかりで日々精進しておりますので、ご指導の程、よろしくお願い致します。
【薬剤師　福司山 弥生】こんにちは。薬剤部の福司山と申します。服薬指導の主な担当病棟は東５です。趣味はスキーです！まだ西別府病院に来て４カ月ほどで、不慣れなこともありご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。
【薬剤師　吉田 翔平】中２病棟および NST を担当しています、吉田と申します。今年で薬剤師となり５年目になります。まだまだ至らない点も多いと思いますが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

以上薬剤師７名に薬剤助手１名で日々の業務を行っています。
これからも医薬品の適正使用の推進、医薬品に関連した医療事故防止を図り医療安全を確保しつつ適正な薬物療法の提供に努めていきます。

中４病棟

中４病棟は、大分県全域（９つの保健所区域）から、結核と診断された患者様の入院を受け入れています。多くの患者様が長期入院を余儀なくされるため、患者様および家族に対し、受け持ち看護師を中心に、入院から退院まで安全で安楽な療養生活が送れるよう支援体制の強化に努めています。また、治療開始から終了までの確実な内服が必要となるため、入院時から直視監視下内服確認（DOTS）を行い、服薬指導を行っています。入院中から地域の保健師と連携し、患者様や家族の身体的・精神的サポートを行い、退院後は患者様が安心して生活が送れるよう、毎月、地域の保健師と「結核患者支援検討会」を当院で開催し、病院と地域で結核患者支援ができる体制づくりを行っています。

（看護師長　杉光　初美）